

Ⅲ 宮崎県特別支援教育研究連合 各研究部会

視覚障がい教育研究部会

1 研究主題

「視覚障がいのある幼児児童生徒の主体的な学びにつながる ICT 活用」

2 主な研究・活動の内容

事業内容	事業計画の概要		
	年 月 日	場 所	実 施 内 容
研 究 会 及 び 研 修 会 その他	R 5. 4月～6月	明星視覚支援学校	○基本研修（歩行、点字、眼疾患、弱視教育、進路、情報機器等）
	R 5. 4. 29（土）	明星視覚支援学校	○視覚障がい福祉機器展
	R 5. 5. 17（水）	明星視覚支援学校	○課題研究開始
	R 5. 7. 27（木）～28（金）	明星視覚支援学校	○全日本盲学校教育研究大会北海道大会（オンライン参加）
	R 5. 7. 28（金）	明星視覚支援学校	○視覚障がい教育研究部会 合同研修会 ○視覚障がい教育研究部会 代議員会
	R 5. 8. 21（月）	都城市	○あいあい教室
	R 5. 10. 20（金）	明星視覚支援学校	○あいあい教室
	R 5. 11. 17（金）	明星視覚支援学校	○九州地区盲学校教育研究会（宮崎大会） ○教材教具展示会（16～24）
	R 6. 1. 18（木）～19（金）	広島県	○日弱研広島大会参加
	R 6. 2月	明星視覚支援学校	○九盲研宮崎大会報告集完成・配布
	R 6. 3. 6（水）	明星視覚支援学校	○視覚障がい教育研究報告会
			○ しろやま（延岡しろやま支援学校）、日向、小林サテライト 5～3月 月1回 ○ 宮大サテライト（宮崎大学医学部附属病院） 4～3月 月1回 ○ 都城サテライト 年2回 ○ 日南サテライト 年1回 ○ 実践授業（本校） 7月、10月、12月に実施
			○ 広島大学の ICT 研究の協力校となっている。 ○ 本年度は九盲研（宮崎大会）の主管校を務めるため、大会事務局を設置し、学校全体で運営を行った。

(1) 合同研修会

本部会の代議員会の前に、筑波大学付属特別視覚支援学校の宇野和博氏を講師に迎え、「視覚障害と読書バリアフリー」について専門家の知見を教示いただいた。研修会には本部会員の中学校の先生をはじめ、県立高校、近隣保育園からも参加いただいた。

(2) 教材教具展示会

九盲研宮崎大会の一週間前から実施し、当日県外の参加者にも見ていただいた。

3 主な研究成果

本部会は、校外の会員は大王谷学園中等部の1校のみである。今年度本校が主管となった九盲研宮崎大会では、視覚障がい教育について他県の盲学校と活発な意見交換を行うことができた。

聴覚障がい教育研究部会

1 研究主題

「本県の聴覚障がい支援学校の現状と課題」

2 主な研究・活動の内容

(1) 年間活動報告

期 日	活 動	会 場
6月2日	総会 運営委員会	延岡しろやま支援学校 (リモート)
夏季休業中	夏季研修会	各グループで期日を決 め、リモート等で実施
10月19、20日	第57回 全日本聾教育研究大会奈良大会	奈良県立聾学校他
11月10日	第28回 九州地区聴覚障害教育研究大会大分大会	大分県立聾学校
2月6日	運営委員会	延岡しろやま支援学校 (リモート)

(2) 聴覚部会研修会

① 夏季研修会担当者協議会

学部、担当教科、担当業務等に分かれて、各グループで情報交換、情報共有を行った。
各校での課題や解決策について協議した。

② 校内研修の共有

各校で実施している研修内容について、必要と思われるものを動画で共有し、自由に閲
覧できるようにした。

3 主な研究成果

(1) 成果

一昨年度より、聴覚障がい教育研究部会として運営を開始し、今年度は都城さくら聴覚支援
学校が研修担当であった。事務局である延岡しろやま支援学校と、その都度密に連絡を取り合
いながら研究を進めることができた。特に来年度の研究大会内容の検討は、オンラインでの打
合せや、担当者会を数回重ねながら、詳細を決めていくことができた。

夏季研修では、その教科・役職ならではの課題を共有し、解決にむけての意見交換を行っ
た。昨年度の反省を受け、より絞り込んだグループ編成にしたことで、各校の実状をふまえた
意見交換ができた。

(2) 課題

まず、各校で行っている専門的内容の研修について、動画を共有する試みを行った。しかし
設定に時間を要し、双方が閲覧できるようになったのは2学期後半であった。今年度作った土
台を生かし、来年度以降積極的に活用していきたい。

また、夏季研修では、グループによっては現状報告にとどまり、課題解決に向けた意見交
換が十分できなかったという反省があった。各校の環境が異なる中ではあるが、より協議を深
められるグルーピングの工夫等を来年度に引き継いでいきたい。

知的障がい教育研究部会

1 活動

「知的障がい教育研究部会の研究大会について」

2 主な活動の内容

(1) 年間活動報告

期 日	会議内容及び活動概要	会 場
6月23日	第1回理事会及び総会（オンライン）	各学校
11月10日	第2回理事会（オンライン）	各学校
2月 2日	第3回理事会予定（オンライン）	各学校

(2) 全国大会、九州大会等への参加及び協力

- 全日本特別支援教育研究連盟全国大会「徳島大会」令和5年10月19日・20日
4年ぶりに参集型の大会開催

- 九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「福岡大会」令和5年12月1日
参集、オンラインによる開催

提案発表者

- ◇第4分科会 作業学習・進路学習

「キャリア教育の視点や学部間・学校間の接続を踏まえた作業学習、進路学習」

提案発表者 串間市立串間中学校 教諭 大岩本 毅

- ◇第5分科会 自立活動

「中心課題を明確に位置付けた個別の指導計画に基づく自立活動」

提案発表者 宮崎県立日南くろしお支援学校 教諭 米良 航

(3) 知的障がい教育研究部会研究大会の開催

- 隔年開催のため、本年度の開催はなし

3 主な活動の成果

今年度もオンラインで年3回の理事会を実施した。研究大会については、令和2年度から研究大会が隔年開催になっており、県北部（延岡・西臼杵・日向）、県西部（都北・西諸）、県南部（日南・串間）、県中部（宮崎・東諸・東児湯・西都）の各特別支援学校が担当校として研究大会の運営を行っている。今年度は、次年度の第13回宮崎県特別支援教育研究連合知的障がい教育研究部会研究大会「日南大会」に向けて、担当の県立日南くろしお支援学校を中心に準備を進めている。11月に実施した第2回理事会において、日南くろしお支援学校が次年度研究大会の概要説明を行い、開催方法や内容等についての検討を行った。次年度研究大会のスムーズな運営、大会の充実に向けて、今後も本部会事務局と研究大会担当校とで連携を図りながら準備を進めていきたい。

肢体不自由教育研究部会

1 研究主題

新しい時代の肢体不自由教育の充実を目指して

2 主な研究・活動の内容

(1) 活動内容

本部会は、清武せいりゅう支援学校と延岡しろやま支援学校（肢体不自由教育部門）で組織され、肢体不自由教育を推進し、会員の資質の向上を図ることを目的としている。この目的を達成するために、研究大会の開催や肢体不自由教育に関する調査研究等を行っている。

期日	肢体不自由教育研究部会事業	その他の関連事業
4月		
5月		30日（火） 九肢研（鹿児島大会）役員会及び総会＜オンライン開催＞
6月	23日（金）第1回肢体不自由教育研究部会 理事会・代議員会 ＜オンライン会議＞	
7月	28日（金） 第25回肢体不自由教育研究大会 ＜オンライン開催＞ 第2回肢体不自由教育研究大会理事会・代議員会 ＜オンライン会議＞	
8月		
9月		
10月		18日（水）～19日（木） 第60回九州地区肢体不自由教育研究大会（鹿児島大会）＜オンライン開催＞
11月		2日（木） 第69回全国肢体不自由教育研究協議会（島根大会）
12月		12月18日（月）～令和6年1月31日（水） 第69回全国肢体不自由教育研究協議会（島根大会）＜動画配信＞
1月	12日（金） 第3回肢体不自由教育部会 理事会・代議員会 ＜場所 延岡しろやま支援学校＞ 部会誌第28号発行	
2月		
3月		

(2) 第25回肢体不自由教育研究大会

本年度は、オンラインによる研究大会を実施した。昨年度のアンケートより学びたいというニーズの高かった障がいの重い子供の教科学習について、福岡大学人文学部教授の徳永豊先生に講話をしていただいた。オンラインで講師と受講者の各会場を中継し、本会の会員97名に加え、他

の特別支援学校職員7名、公立小中学校職員7名、合計111名が参加した。また、オンデマンド配信を行い、研究大会当日、参加が難しかった職員に向けて研修する機会を設定した。

3 主な研究成果

両校以外の県内特別支援学校や小中学校にも案内要項を配布したことで、肢体不自由教育の理解・啓発にもつながった。また、オンデマンド配信を行ったことで、より多くの職員が肢体不自由教育の専門性を高める機会を得ることができた。それぞれに、明日からの授業のヒントを得ることができた充実した内容の研究大会となった。また夏季休業中には、研究大会で学んだことを実践し、児童生徒の実態把握に努め、実態にあった授業を計画するなど、研究大会の学びが肢体不自由教育の専門性の向上の一助となった。

また、専門性の向上に向けて、児童生徒のための教材の購入等、肢体不自由教育の充実を図ることができた。今後も助成金なども計画的に運用し、職員の資質向上および児童生徒の日々の教育の充実を目指した専門性の向上に努めていきたい。

今後も新しい時代に対応した肢体不自由教育の充実を図っていくため、ICTのさらなる活用を実施していくとともに、肢体不自由教育のセンター的機能の役割を担うべく、引き続き小中学校等にも理解・啓発を促していきたい。

【研究大会の様子】



令和5年度 病弱教育研究部会

1 研究主題（テーマ）

病弱特別支援学校における個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて

2 活動内容

(1) 年間活動報告

期 日	事 業 内 容
5月上旬	病弱教育研究部会理事会・総会
5月～9月	理論研修・講演会参加 特別支援教育総論・令和の日本型学校教育 学習につまずきを抱える児童生徒の理解と具体的な支援の方法 先進校の事例共有
8月24日	全病連福岡大会（病弱教育研究部会 夏期研修会として参加）
9月	理論研修 先進校の事例共有等
10月～1月	グループ研修 「個別最適な学びと協働的な学びについて」意見交換、教育実践、報告書作成 実践発表
2月中旬	病弱研究部会理事会

(2) 病弱教育研究部会夏期研修会（宮崎県特別支援教育研究連合研究大会分科会として開催）

本年度は、全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会と九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会を併催とする形で、福岡県で開催され、分科会では、宮崎県から実践発表を行った。そのため、今年度は、本部会独自の研修会を行わず、福岡大会へ会員が全員参加する形とした。

3 主な研究の成果

「病弱特別支援学校における個別最適な学びと共同的な学びの実現に向けて」というテーマを掲げて3か年計画で研究を進めていく1年目である。そのため、本年度は、中央教育審議会答申に2020年代を通じて実現を目指す「令和の日本型学校教育」についての理論研修を実施した。また、特に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」について、先進校の事例研究や、既研究内容の情報共有を図った。教科などのグループごとに意見交換を行い、今すぐできる「個別最適な学び」に通じる児童生徒の興味・関心を高める教材作成、ワークシートの工夫等に取り組んでいる。次年度以降は、人とのコミュニケーションに苦手意識を抱いている児童生徒達へ、探究的な学習や体験活動を体験させることを通じて、少人数での指導ではあるが充実した「協働的な学び」につながる取り組みについて進めていく予定である。また取り組みについては、地域の学校への発信についても考えていきたいと考えている。

情緒障がい教育研究部会

1 研究主題（テーマ）

「未来につなぐ特別支援教育の推進」～個別の教育的ニーズに応じた支援の在り方～

2 主な研究・活動の内容

(1) 年間活動報告

事業名	期 日	場 所	内 容
第1回研究会	4月25日(火)	宮崎南小学校	・ R5九情研実践発表に向けた検討
第2回研究会	5月11日(木)	宮崎港小学校	・ R5九情研実践発表に向けた発表資料作成
第1回事務局会	5月19日(金)	宮崎南小学校	・ 年間事業計画検討
第3回研究会	6月8日(木)	広瀬小学校	・ R5九情研実践発表リハーサル
第1回理事会	6月16日(木)	オンライン会議 (ホスト宮崎南小)	・ 総会決議(紙面決裁) ・ 年間事業計画検討
夏季研修会	7月28日(金)	オンライン	・ 実践発表
第2回事務局会	9月14日(金)	宮崎南小学校	・ 今後の事業計画等について
第4回研究会	9月22日(金)	宮崎南小学校	・ R6九情研実践発表に向けて
第5回研究会	10月27日(金)	宮崎南小学校	・ R6九情研実践発表に向けて ・ 通級指導教室担当者研修会について
通級指導教室 担当者研修会	11月17日(金)	オンライン研修会 (ホスト宮崎南小)	・ 国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター総括研究員 井上秀和先生 講演
第6回研究会	12月13日(水)	宮崎小学校	・ R6九情研実践発表に向けて ・ 授業研究会
第3回事務局会	1月16日(火)	宮崎南小学校	・ 年間事業のまとめ ・ 理事会に向けて
第7回研究会	2月6日(火)	宮崎南小学校	・ R6九情研実践発表に向けた発表資料検討
第2回理事会	2月15日(木)	オンライン会議 (ホスト宮崎南小)	・ 年間事業のまとめ ・ 理事会まとめ(次年度の引継ぎ等)
第4回事務局会	3月10日(木)	宮崎南小学校	・ 本年度の反省 ・ 次年度の事業計画について
第8回研究会	3月19日(火)	宮崎南小学校	・ R6九情研実践発表に向けた発表資料検討

3 主な研究成果

本部会の事務局拠点校を宮崎南小に設置し2年目となり、組織を再編しながら、円滑な部会運営を図った。参集型による会議や Zoom を使用したオンライン会議等、両方の良さを生かしたハイブリッドによる研修会などを開催した。

(1) 成果

今年度の夏季研修は、他の研究部会と合同で研修会を開催した。今年度、第51回九州地区情緒障害教育研究会「長崎大会」のLD・ADHD分科会の実践発表者である、広瀬小学校 白石千絵教諭の実践発表を行い、児童への効果的な支援の在り方について、研修を深めることができた。

また、令和6年度、第52回九州地区情緒障害教育研究会「佐賀大会」の自閉スペクトラム症分科会の実践発表者である、宮崎小学校 小野友香教諭の授業研究会や研究実践の支援として研究会を行った。

さらに、通級指導教室担当者研修会(オンライン)を開催し、国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター総括研究員である井上秀和先生に通級による指導の在り方や先行事例などの講演をしていただき、大変好評であった。

(2) 課題

自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍する児童生徒は年々増加傾向にあり、多様化する教育的ニーズへの対応がより一層必要となっている。また、通常の学級に在籍する児童生徒の指導の困難さも増し、通級による指導を必要としている割合がさらに高まってきている。今後も通級指導教室の増設に合わせて、より高い専門性をもった教員も求められる。今後も研修を通して、教員の専門性を高め、指導力の向上を図るとともに、保護者や関係機関との具体的な連携についても、さらに取組を進める必要がある。

令和5年度 難聴・言語障がい教育研究部会 活動報告

1 研究主題

「子どもや保護者の多岐にわたる教育的ニーズに応える支援・指導の在り方
～ 人と関わる力を高める支援を通して ～」

2 活動内容

期日	活動の概要
5月26日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県難言研総会、専門部会（引継ぎ） ・ 令和5年度 九難言長崎大会・全難言埼玉大会発表検討会 ・ 専門部会（今年度の計画）、全体会
6月30日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度 九難言長崎大会発表 令和6年度 九難言沖縄大会発表検討会 ・ 講義「小・中学校の通常学級における聞こえに困難のある子どもへの支援」 講師：さくら聴覚支援学校 高橋 直樹 指導教諭 ・ 専門部会、全体会
7月27日(木) 7月28日(金)	第52回 全国公立難聴・言語障害研究協議会 全国大会 第55回 全国情緒障害教育研究協議会 全国大会 埼玉大会 『彩～豊かな学びと共生社会の実現を目指して～』 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2分科会 「構音障害」に関する指導 「ことばで表現することが上手なAさんから学んだ自己肯定感を高める構音指導」 都城市立明道小学校 春山 咲希子 教諭
8月3日(木) 8月4日(金)	第47回九州地区難聴・言語障害教育研究会 長崎大会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 記念講演「もう迷わない！ことばの教室の吃音指導」 講師：九州大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 医師 菊池 良和 先生 ・ 第5分科会「連携」提案 小林市立小林小学校 三浦 弘子 教諭
10月24日(火)	学校行事、対外行事が重なり、日程調整が困難なため、研修会中止
12月7日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義 「言語障害教育担当者として大切にしたいこと」 講師：国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 牧野 泰美先生 ・ 全難言埼玉大会・九難言長崎大会報告 ・ 令和6年度九難言沖縄大会発表検討会 ・ 専門部会、全体会
2月9日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度九難言沖縄大会発表検討会 ・ 令和7年度九難言熊本大会発表について ・ 活動総括と次年度に向けての協議 ・ 実践事例集製本 ・ 専門部会及び協議

3 主な研究成果

(1) 成果

本年度は、社会全体がコロナウイルス感染症蔓延前の状態に戻る中、全ての研修会を対面で行うことができた。本年度も、前年度に引き続き、講義を実施するとともに、会員同士の協議、情報交換も行うことができ、日頃の悩みや疑問の解決につながった。

第52回全国公立難聴・言語障害研究協議会埼玉大会、第46回九州大会難聴・言語障害教育研究会長崎大会も開催され、本県からも実践発表を行うことができた。研修会で宮崎県代表者の研究内容を確認し、全体で研修を深めることができた。

(2) 課題

ことば・きこえの教室、難聴学級での指導は、基本となる手立てや専門的な技術を習得した上で、一人一人の児童の実態に合わせて進める必要がある。研修会での講義や協議の中で得た知識をそれぞれが学級で実践することができた。これからも、講義や担当同士の情報交換を通して、個別に対応できる専門性の向上に結びつく研修内容を計画し、実施していきたい。しかし、本来の社会状況に戻ったことで、運動会などの学校行事、就学時検診などで日程調整が難しくなり、10月実施予定だった研修会が中止となった。研修機会の確保が、課題として残る。